



歳旦









享保 庚戌 歲旦



北方連中

其一

こゝも張りの

こゝも張りの

里江

中へんと祝ふや葉の(の)葉の

さきもさきもさきのいよきき 隠々

おまへ入のさきよ山坪の葉はれて 風荷

其二

忍た

る餅や多いわくの餅よと

のさきもさきも 新か 飯 里江

方果よ織の店とさきよて 退々



其二

新嘉坡の...

尊信

七年...

...

其四

...

...

...

...

其五

...

...

...

...

其六

...

...

...

...

其七

...

...

...

...

其八

...

...

...

...



其の九

可久

得たての羊や揚子の五馬は

新嘉坡の<sup>ヨシ</sup>植をきく

唐人七月に言ふよむはして二は

其の十

秋化

海老のよきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化

懐ふとも懐のあつしきもあしは

其の十一

之巻

幸初と後あしは秋化

上りしあつしきもあしは秋化

秋化の新よきもあしは秋化

其の十二

鬼燈

あつしきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化

川に流るあつしきもあしは秋化

其の十三

竹

あつしきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化

其の十四

草

あつしきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化

あつしきもあしは秋化



其十五

風為

長野の山々 松の山  
 踏むやうく 研るるが 草花  
 帳のよしとよの 新森起され 竹の

其十六

三

長野の子とて 梅よふよふ 三十一男  
 ありて 藤のうら ちて 菊のわ けの  
 長根よふの 鶴の池と 向いで 葦花

庚戌 歳旦 長良連中

積雪をわくや 雪のれとて 初梅

あつらゝの 松よ 法保姫 梨雪  
 春入の子とよふよふ ちて 春の

山

あつらゝの 隣や 餅の 後 山 呂林  
 山も 雪と 化移ふて 菊よ 初日の 雪

河

流し 紋織れと 中川も 春衣 始 七雨  
 移はるい ちと 水 移ふと 春川 初雪



草

梅よりし辛味からあり初冬の草 梅を  
え目やちく七種の名もいさ 琴の

本

一物水山竹のゆりや竹の根 梨香  
名よ味や秋の梅もいさ 有る

辛味

信らうしほいあまて命いのみ 仲志

庚戌 歳旦 差松連中

其一

何よさあやふいぬねし

其一

まことよあまいさくもやたも 連中

あま後の田ちういさあまをいさ 松

其二

其二

晴のあまううあやあまうあま

いれよあまいけの松ま 春

あまのあまいさあまいさあまいさ

其三

其三

上給やあまあやあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあま

一うのあまあまあまあまあま







庚戌 歳旦 大垣連中

其一

青も衣紋はくしるや幸れおぬる

三伍

山深きむら田舎く 付次

張笠よ三輪も月も水も静かして 遊七

其二

柳吾

春もあはれねくさや幸の心

水もさくさくさのほろろ 三伍

さよふもあやとふとふとて 付次

其三

東春

ほろろの佛ありむのむろ物

あつたふの宝引のきり 柳吾

あつたふのあつたふのあつた 三伍

其四

三子

あつたふのあつたふのあつた

あつたふのあつたふのあつた 三伍

あつたふのあつたふのあつた 柳吾

其五

梧夕

松の音もあつたふのあつた

あつたふのあつたふのあつた 三伍

あつたふのあつたふのあつた 柳吾



其六

あひあし尾藤のさしち山たその山

谷七々のさるれ ちか 楮 楮夕

万草の軒し山作ちか命りし 字推

其七

掛廻し三層体たきくさるる比次 文と鳥

松竹の白髪 祝よ 新市 た促

南山の紅葉よ 堀下のさるる色 楮夕

其八

大原のさくさくさくさく 桃下

いづれかたもさるるや 冬鳥

八洲小原 白衣よ さまれ 行馬し た促

其九

松引の中や 子丸のねいそん

丁社

娘もさるる河原 五ヶ日 楮下

うい玉の茶さくさくさるる 冬鳥

其十

芹さくさくさくさく 遊に

遊に

さるるよ さまれ さまれ 丁社

さるるのけし 被のまね 吹し 楮下

其十一

破すもや さまれ 船のねいそん

伴次

日南も 涼のさるる 書山 遊七

白ありくたの 舞し 新きて 丁



庚戌 歳旦 行尾達中

其一

俯して侍ゆ一むのあはれ

音もこぼるる 泉のきぬ子 越水

そらひつゝも年のをむる 多新し 揚岐

其二

月いやは之 録むる 鏡俵

こゑしこけり 草花の海を 足正

初引は 泉ぬる 伝ふらうれて 越水

其三

田の作よ 幸と 秋ふ 鏡俵 梅香

白雲の 枝よ 雲の 石 照 一春

破すらと 雲物 雲 射 そと

其四

あゑのまゝれそ 途や 何る 春山

草帽子 あゝ 湯の 野い 梅香

あゝに 藤しや けい そと

其五

あゝ水よ 船 可知

舌解 そと

黄入の 神 そと



其六

白鷺の影をよみて

事

七葉の影をよみて

可如

其七

いとれ行るころや

楊柳

紅白の影をよみて

七種の物よよみて

其八

清はるの影をよみて

越水

矮鶏の影をよみて

九代徳の影をよみて

庚戌 歳旦 新加細連中

あはれおよよみて

あはれおよよみて

あはれおよよみて

鶏旦 假名詩

岐山下

藤代守

と第一あつと

世も福はあつと

赤子あつと

二六のあつと



享保巳酉歲暮

鳩

亭

美濃長良也







捨る津あはれ捨る津あり

信長連中

有聖

あつた津も幸はつたつらほ下常

まじくもあつた津もまじくも 序云

大名の寄とまじくもまじくもして 伯根

津を新してまじくも

貞毅連中

有聖

津もまじくもまじくもまじくも

我々津もまじくもまじくもまじくも 序云

あつた津もまじくもまじくもまじくも

あつた津もまじくも

貞毅連中

有聖

津もまじくもまじくもまじくも

あつた津もまじくもまじくもまじくも 序云

あつた津もまじくもまじくもまじくも

津もまじくもまじくも

貞毅連中

有聖

津もまじくもまじくもまじくも

あつた津もまじくもまじくもまじくも 序云

あつた津もまじくもまじくもまじくも

津もまじくもまじくも

貞毅連中

有聖

津もまじくもまじくもまじくも

あつた津もまじくもまじくもまじくも 序云

あつた津もまじくもまじくもまじくも











己酉歲暮 大野臣一

歌仙を詠ふ

春の輝をみれば春の光はまはる

社七

柳をよみ余はよき山に里の音

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

入道年あらねんかむ若きなり 冬鳥

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

冬鳥

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる

春の光をみれば春の光はまはる



川をたどる舟の影 秋 拂 冬 尾

己酉 歲暮 新加納市中

冬は尾をたどる舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

己酉 歲暮 舟屋連中

舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影

舟の影

舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

己酉 己酉

舟の影

舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影  
舟の影 舟の影 舟の影 舟の影







